

『医療活動』&『医師の使命』 ～ 個性を引き出す『さりげない』言葉 ～

2025 年 1 月 22 日 東久留米ジョナサンで、国立がん研究センターがん対策研究所 コホート研究部
部長/がん疫学・分子疫学研究会のニューズレター委員:澤田典絵先生 と 研究員 医学博士:花房真
理子先生が ニューズレターの取材をしてくださった。

早速、【本日は、貴重なお時間をいただき、研究だけではなく、生きていくうえで学びの多い先生
のお話をうかがえて、感謝しかありません。誠にありがとうございました。先生の『さりげない』
言葉は、私にとっては、どれもさりげなく重く考えさせられるものでした。早速、読書から
実践しようと、学生時代の時によく読んでいて本棚にしまっていた、三浦綾子の本を開いてみまし
た。全然話を覚えていなくて、自分の記憶力のなさに驚き、改めて先人たちの数々の言葉を引用
された、先生の記憶力に感銘いたしました。

本日は貴重なお時間をとっていただき、ありがとうございました。先生のお話は言葉一つ一つを非
常に大事にされていることが伝わってくるもので、たくさんのファンがいらっしゃるのも納得でし
た。】との心温まるメールを頂いた。

【筆者の夢は、勝海舟・新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三・菅野
晴夫・Knudson・樋野興夫の 10 人で『天国で、がん哲学外来』の開催である。】(画像)

『医療者の 2 つの使命』は、

- ① 「学問的、科学的な責任」で、病気を 直接治療する → 学者的な面
- ② 「人間的な責任」で、手をさしのべる → 患者と温かい人間としての関係

【言葉は『何を言ったかではなく、だれが言ったか』で決まる & 個性が引き出される】とさり
げなく語った。

今回は、【『医療活動』&『医師の 2 つの使命』】の復習の大変有意義な貴重な『取材』となった。

《樋野先生の夢》

7人の侍：「勝海舟・新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三」と先生の恩師：「菅野晴夫先生（癌研時代）、Alfred George Knudson 博士（アメリカ時代）」と樋野興夫先生とで天国でメディカル・カフェを開催すること。希望者はお茶係に採用してくださるはずです。

